

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

ハンドセラピー終了要因の質的研究

～ハンドセラピー対象者のセラピー終了までに変化する感情、セラピー終了のきっかけや思い～

2. 研究責任者(当院)

所属：リハビリテーション室

氏名：高橋 勇大

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：なし

代表名：なし

3. 分担研究者

所属：整形外科 氏名：上野 啓介

所属：リハビリテーション室 氏名：加藤木 丈英、宍倉 亮、宍戸 麻菜、村本 涼

所属：東京保健医療専門職大学教授 氏名：山田 孝

4. 研究対象者

2020年4月1日～2023年4月1日の間に、聖隷佐倉市民病院において、手外科疾患に対するリハビリテーション（ハンドセラピー）を受け、且つ終了時の評価の一環としてインタビューを受けることに個別に同意を得た方。

5. 研究の必要性

手外科領域における入院、外来のリハビリテーション（ハンドセラピー）は主治医の指示により処方、終了され、リハビリテーションには期限が決められている反面、本人の希望でリハビリテーションを継続し、長期化する症例が少なくない。彼らは可動域制限、筋力、痺れ、動作障害で悩み継続を希望することも多いが、主訴がはっきりとせず長期間に渡って漫然と通い続ける場合がしばしば見られる。外来リハビリテーション終了時に対象者へインタビューをして録音し、得られた結果を概念化し、それをもとに治療をすることで、外来リハビリテーション提供時の対象者の主訴を捉えやすくなり、それによって主訴に合わせた内容を的確に提供でき、結果的に質の高い内容を提供できると考えられる。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

研究等によって生ずる個人の影響は、インタビューを行い、個人的な情報を聞き出し録音されることによって精神的負担がかかる可能性があること、一定時間拘束することによって身体的負担が生じるおそれがあることである。対策として、他者へ教えたくない情報は答えなくても良いこと、インタビューの途中であっても対象者が心身のストレスを感じた場合、いつでも中止が出来ることを研究依頼書に記載し、口頭でも十分説明する。

また、外来リハビリテーション実施中と同様に、インタビューの実施前後に、体調確認とバイタルを測定し、何らかの異常があれば実施を中止する。インタビュー実施中に万が一、対象者の体調不良があれば、当院リハビリテーション室の急変時対応マニュアルに従い、担当医師に報告し主治医の指示に従う。あらかじめリスクについて紙面と口頭にて十分に説明する。患者が録音を拒否した場合は、ノートを取ることにする。

今回の検討により医学上の貢献の予測としては、今後の発展的研究につながり、外来リハビリテーション提供時の対象者とのコミュニケーションを円滑にすることで主訴を捉えやすくなり、主訴に合わせた内容を的確に提供できると考えられる。結果的に質の高い内容を提供できると考える。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151（代表）

担当者氏名：高橋 勇大

対応時間：8:30-17:00

※ご注意

対象者とは、本研究に参加された方です。
お問合せは、本研究に参加された方と
研究関係者のみで、その他の方へのご対応
はできませんので、予めご了承ください。